

昭和49年度水稻作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和49年度水稻作関係除草剤の試験成績検討会は昭和49年12月11日より13日までの3日間にわたって、東京農林年金会館において開催された。ここにその結果の概要について紹介する。

1. 供試除草剤の動向

昭和47年度から本年度まで3年間の委託除草剤は第1表の通りである。本年度供試されたのは合計145薬剤で、供試合計剤数でみるかぎりではこの3年間大差ないが、内容的には昭和48年度より若干傾向が変わり、機械移植栽培の増加に伴ない、稚苗移植栽培を対象とした除草剤の委託が増加し、本年度は成苗移植栽培対象の58薬剤を超えた69薬剤が検討された。

つぎに、研究課題ごとにとみると次のようである。この2～3年問題とされている多年生雑草はその発生面積をふやし、昭和47年度の発生面積110万haから本年度はこれの1.5倍から2.0倍に達しているものと推定され、有効な除草剤の開発がますます急がれる段階である。本年度もBAS-3510関係の除草剤は成苗移植で19薬剤、稚苗移植対象として13薬剤、乾田直播用として2薬剤が検討された。また大多数の除草剤が、多年生草種への拡大をも含めて試験検討された。

土壌混和処理は最近の機械移植栽培法の増加ともあわせ、省力性や効力の持続性、安定性などから有効な処理法として注目されているが、

本年度は成苗移植栽培で8薬剤、稚苗移植栽培で10薬剤が委託され、過年度に引き続き検討された。また、ジフェニールエーテル系で作用力の極めて強い新しい薬剤が1剤委託され、また処理法など新しい方向が生まれそうである。

茎葉兼土壌処理はモリネートSM粒剤が昭和47年度はじめての3L(葉期)時処理剤として実用化判定を得たが、前年度に引き続きノビエ3.5L時までの有効性についての検討と多年生雑草との同時防除の可能性について試験検討された。このほか、モリネートKM粒剤、B-3015・S・MCPB粒剤なども有効薬期拡大をねらって試験委託された。

パイプダスター利用による除草剤の省力かつ少量均一散布は今後の散布法の1つとして注目されるところであるが、NIP、X-52など合計9薬剤について省力性と散布の均一性による2kg/10a散布の適用性について検討された。

作用特性試験は成苗移植栽培対象9薬剤、稚苗移植栽培対象20薬剤について早期栽培条件下と普通期栽培条件下でそれぞれ試験を実施し、さらに、作用性および変動要因試験は14薬剤、沖縄の石垣試験地では61薬剤について試験を実施した。また、第一次適用性試験では成苗移植対象13薬剤、稚苗移植対象として18薬剤について試験し、これについては9月17日に中央検討会を開催し、判定を行なった。これに

については植調第8巻第4号において報告済みである。

2. 試験結果の概要

本年度供試薬剤の中で実用化可能と判定されたものは、成苗移植栽培を対象として52薬剤、稚苗移植栽培を対象としては60薬剤、湛水直播対象3薬剤、乾田直播対象2薬剤、畦畔雑草対象2薬剤、耕起前1薬剤、休耕田・非農耕地対象が1薬剤の合計120薬剤で、これは供試薬剤中の82%に該当する。このように多くの除

草剤が実用化可能と判断されたことは、供試された多くのものが、既に有効性が認められた薬剤同志の混合剤であることにもよるが、1つには、作用特性試験、変動要因試験、適1試験、さらに本年度からの沖縄石垣島における試験等を通じて薬剤の作用性がより把握し易くなっていることも大きな理由と思われる。第二次適用性試験の判定結果は第2表、実用化が認められた除草剤の使用基準は第3表の通りである。なお、沖縄石垣島試験地の試験結果は別に報告した。

第1表 区分別委託除草剤数（昭和47～49年度）

区 分	年 度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度
成 苗 移 植	土壌混和	9	7	8
	移植前後	8	14	4
	土 壌	20	9	9
	茎葉兼土壌	29	27	14
	適用拡大	9	15	23
稚 苗 移 植	土壌混和	5	9	10
	移植前後	5	10	13
	土 壌	7	5	7
	茎葉兼土壌	8	20	18
	適用拡大	11	18	21

区 分	年 度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度
湛 水 直 播		10	4	3
乾 田 直 播		11	4	6
畦 畔 雑 草		2	2	3
耕 起 前 雑 草		3	1	2
休耕田(非農耕地)		5	3	3
苗代(水苗代)		1	0	0
苗代(畑苗代)		1	0	0
合 計		144	148	144

昭和49年度 水稻作関係供試除草剤名

A. 基礎試験（沖縄石垣島試験地）

SL-27粒, RH-2915乳, 粒, NTN-72K粒, MC-79粒, N-301粒, MT・B-3015粒 (7+7)・(10+7%), MT-101粒, MS-8粒, MS-8・B粒, MK-129粒, MK-129・B粒, SK-23粒, X-52・AM粒, X-52(-Na1)粒, (-Na2)粒, (-Na3)粒, (-Na4)粒, NP-27水和, NP-31乳, YSH-2粒, YSH-3粒, YSH-5粒, YSH-9粒, YSH-10粒, YSH-12粒, YSH-16粒, YSH-17粒, YSH-24粒, CG-7103粒, CG-102粒, CG-102(-Na1)粒, (-Na2)粒, (-Na3)粒, (-Na4)粒, (-Na5)粒, KUE-2079A粒, シメトリン粒, NTN-72・K(-Na1)粒, (-Na2)粒, (-Na3)粒, (-Na4)粒, NK-049(-Na1)粒, (-Na2)粒, NK-049・MA-3粒, S-28(-Na1)粒, (-Na2)粒, (-Na3)粒, (-Na4)粒, (-Na5)粒, シメトリ

ンM粒, シメトリンMZ-1粒, シメトリンMZ-2粒, BAS-3510水和, BAS-3510液,
MCP・BAS(9+30)液, MCP・BAS(9+20)液, MCP・BAS(6+30)液, HW
-34D乳

B 作用特性試験

(1) 成苗移植

RH-2915乳, RH-2915粒, M-351乳, MT-120粒, NP-27水和, NP-31乳,
KH-191粒, N-301粒, HW-34D乳

(2) 稚苗移植

RH-2915乳, RH-2915粒, RH-2915・SM粒, SL-041; -042; -043液,
CG-109粒, CG-110粒, CG-109・CG-110粒, MT-120粒, MT-220粒,
B-3015・BAS・MCPB粒, MT・B-3015・MCPB粒, SW-741粒, S-64X粒
NTN-80・KM粒, MK-129・M粒, MC-1粒, MC-2粒, MC-3粒, X-52(-Na1)粒
X-52(-Na2)粒

C 変動要因・作用性試験

MS-8粒, SK-23粒, SST粒, モリネート・SM粒, MK-129粒, TH-63(Na)粒, R
H-2915粒, プタクロール粒, MC-79粒, KUE-2079A粒, CG-102粒, モリネート
SM粒, MK-129・M粒, BAS-3510粒

D 第二次適用性試験

I-1 (普通移植栽培-土壤混和)

G-315B乳, 改良G-315乳, M-351乳, NK-049S粒, RH-2915粒, RH-29
15乳, B-3015K乳

I-2 (普通移植栽培-移植前後土壤処理)

MS-8粒, MC-79粒, プタクロール5%粒, B-3015-K粒

I-3 (普通移植栽培-移植後土壤処理)

MC-79粒, MT-101粒, KW-10粒, MT・B-3015(H)粒, U-67粒, KH-19
1粒, AN-1粒, MA-3粒, B-3015・ダイアジノン粒

I-4 (普通移植栽培-茎葉兼土壤処理)

モリネート・SM粒, モリネート・KM粒, CG-102粒, TH-67粒, N-301粒, MCC・MCP
B粒, MCC・M・BAS粒, SMX粒, B-3015・S・MCPB粒, B-3015・BAS粒, B-
3015・S・BAS粒, S-28・S粒, CH-721・S粒, TH-63粒, TH-63(Na)粒

I-5 (普通移植栽培-適用拡大)

CG-102粒, TH-63粒, TH-67粒, モリネート・SM粒, (X-52)→S-28・AM粒, H

OK-06粒, HOK-05粒, (G-315)→MCC・M粒, MCP・BAS水和, MCP・BAS粒, 2,4PA・BAS水和, 2,4PA・BAS粒, MCP・BAS液, MCP・BAS(Na)粒, 2,4PA・BAS(Na)粒, SMX粒, NK-049・S粒, BAS-3510粒, KH-191粒, HOK-05粒, (B-3015)→B-3015・S粒, BAS-3510(Na)液, SST粒

II-1 (稚苗移植栽培—土壤混和处理)

G-315乳 (大型機械散布), G-315乳, G-315(H)乳, 改良G-315乳, NTN-72・K乳, NK-049・S粒, RH-2915粒, RH-2915乳, RH-2915化成肥料, B-3015・K乳

II-2 (稚苗移植栽培—移植前後土壤处理)

MS-8粒, モリネート・K粒, MC-79粒, X-52水和, X-52・K水和, X-52粒, X-52・B粒, NTN-72・K粒, NK-049・S粒, プタクロール50粒, プタクロール2.5粒, SST粒, B-3015K粒

II-3 (稚苗移植栽培—移植後土壤处理)

MT-101粒, NTN-72・K粒, プタクロール50粒, MT・B-3015(H)粒, MT・B-3015粒, MT・B-3015・MCPB粒, B-3015・ダイアジノン粒

II-4 (稚苗移植栽培—茎葉兼土壤处理)

モリネート粒, モリネート・SM粒, モリネート・K粒, モリネート・KM粒, SMZ粒, プタクロールS粒, B-3015・BAS・MCPB粒, B-3015・S・MCPB粒, B-3015・BAS粒, B-3015・S・BAS粒, SW-741粒, SW-742粒, SW-743粒, HOK-05粒, X-52・モリネート・AM粒, TH-63粒, CG-102粒, TH-67粒

II-5 (稚苗移植栽培—適用時期拡大)

CG-102粒, TH-63粒, TH-67粒, MTS-1粒, モリネート・SM粒, モリネート・KM粒, HOK-05粒, HOK-06粒, X-52・モリネート・AM粒, (X-52)→アリアルMCP粒, (X-52)→プロメトリンMCPB粒, (プタクロール)→プロメトリンMCPB粒, SMX粒, プタクロール50粒, プタクロールS粒, SSH-23粒, BAS-3510粒, SST粒, BAS-3510液, MCP・BAS水和, MCP・BAS粒

III-1 (直播栽培—湛水直播)

G-315乳, モリネート・K粒, B-3015・K粒

III-2 (直播栽培—乾田直播)

NTN-80・K水和, MC-79乳, モリネート・SM粒, S-28乳, BAS-3510水和, BAS-3510液, TH-63粒

IV (畦 畔)

NP-24水和, アシュラム液, バラコート起泡剤

V (耕起前)

アシュラム液, MON-39液

VI (休耕田・非農耕地)

MON-39液, NP-24水和, アシュラム液

第2表 昭和49年度水稻作関係除草剤実用化判定表

		実	実 および 継	継 続	継続?	中 止
I 普通 移植 栽培	I-1 土 処 壤 混 和 理		G-315・B乳, 改良G-315乳 NK-049・S粒, RH-2915粒 B-3015・K乳, G-315(H)乳	M-351 乳 RH-2915 乳		
	I-2 移 土 植 壤 前 処 後 理		MS-8粒, MC-79粒 ブタクロール5%粒, B-3015・K粒			
	I-3 移 土 植 壤 後 処 理		MC-79粒, MT-101粒 KW-10粒, MT-B-3015(H)粒 U-67粒, KH-191粒 B-3015・ダイアジノン粒	AN-1 粒 MA-3 粒		
	I-4 茎 土 葉 壤 兼 理		モリネート・SM粒, モリネート・KM粒 CG-102粒, TH-67粒 N-301粒, MCC・M・BAS粒 SMX粒, B-3015・S・BAS粒 B-3015・BAS粒 B-3015・S・MCPB粒 S-28・S粒, CH-721・S粒 TH-63粒, TH-63(Na)粒	MCC・MCPB 粒		
	I-5 適 掘 用 時 期 大		CG-102粒, TH-63粒 TH-67粒, モリネート・SM粒 (X-52)→S-28・AM粒 HOK-06粒, HOK-05粒 (G-315)→MCC・M粒 MCP・BAS水和, MCP・BAS粒 2,4PA・BAS水和 2,4PA・BAS粒, MCP・BAS液 MCP・BAS(Na)粒 2,4PA・BAS(Na)粒, SMX粒 NK-049S粒, BAS-3510粒 KH-191粒, BAS-3510(Na)液	HOK-05 粒 (B-3015)→ B-3015・S粒 SST 粒		

		実	実 および 継	継 続	継続?	中 止
Ⅱ 稚 苗 移 植 栽 培	Ⅱ-1 土 処 壤 混 和 理		G-315乳 (大型機械散布), G-315乳 改良G-315乳, NTN-72-K乳 NK-049-S粒, B-3015-K乳	G-315(H) 乳 RH-2915 粒 RH-2915 乳 RH-2915 化成肥料		
	Ⅱ-2 移 土 植 壤 前 処 後 理	X-52 粒	MS-8粒, モリネート-K粒 MC-79粒, X-52水和 X-52-K水和, X-52-B粒 NTN-72-K粒, NK-049-S粒 ブタクロール50粒, ブタクロール25粒 SST粒, B-3015-K粒			
	Ⅱ-3 移 土 植 壤 後 理		MT-101粒, NTN-72-K粒 ブタクロール50粒 MT・B-3015(H)粒 MT・B-3015粒 MT・B-3015・MCPB粒 B-3015・ダイアジノン粒			
	Ⅱ-4 茎 土 葉 壤 兼 処 理	モリネート 粒	モリネート-SM粒, モリネート-K粒 モリネート-KM粒, ブタクロールS粒 B-3015・BAS・MCPB粒 B-3015・S・MCPB粒 B-3015・BAS粒 B-3015・S・BAS粒, HOK-05粒 X-52・モリネート・AM粒, TH-63粒 CG-102粒, TH-67粒	SMZ 粒 SW-741 粒 SW-742 粒 SW-743 粒		
	Ⅱ-5 適 拡 用 時 期 大	ブタクロール50粒 SSH-23 粒	CG-102粒, TH-63粒 TH-67粒, MTS-1粒 モリネート-SM粒, モリネート-KM粒 HOK-05粒 X-52・モリネート・AM粒 (X-52)→アリアルMCP粒 (X-52)→プロメトリン・MCPB粒 (ブタクロール)→プロメトリン・MCPB粒 SMX粒, ブタクロール-S粒 BAS-3510粒, SST粒 BAS-3510液, MCP・BAS水和 MCP・BAS粒	HOK-06 粒		

		実	実 お よ び 継	継 続	継続?	中 止
Ⅲ 直 播 栽 培	Ⅲ-1 湛 水 直 播	G-315 乳	モリネット-K粒, B-3015-K粒			
	Ⅲ-2 乾 田 直 播		モリネット-SM粒, BAS-3510水和 BAS-3510液	NTN-80-K 水和 MC-79 乳 S-28 乳 TH-63 粒		
Ⅳ 畦 畔			アシュラム液, パラコート起泡剤	NP-24 水和		
Ⅴ 耕 起 前			MON-39液	アシュラム 液		
Ⅵ 休 耕 田・非 農 耕 地			MON-39液	NP-24 水和 アシュラム 液		

第3表 昭和49年度水稻関係実用化除草剤使用基準一覧表

	薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅰ Ⅰ 成 苗 土 壌 混 和 処 理	G-315 B乳	土 壌 混 和	寒 地 ? 温 暖 地 の 普 通 期	一年生雑草 マツバイ	植 代 直 前 直 後 (-3~-1)	Ⓔ 50cc/a	砂 壤 土 ? 塩 土 (2cm/ 日以下)	1) 混和時の水深 3~5cm 2) 混和深 2~3cm
	改良 G-315 乳	土 壌 混 和	全 域 の 普 通 期 温 暖 地 の 早 期	一年生雑草 マツバイ	植 代 直 前 直 後 (-3~-1)	Ⓔ 50~ 75cc/a	砂 壤 土 ? 塩 土 (極端な漏水 田は除く)	1) 混和時の水深 3~5cm 2) 混和深 2~3cm 3) 吸着の悪い土壌(砂 壤土, 腐植含量の少い 土壌)では水の動きの 少ない場合は薬害の発 生の危険があるので十 分注意する。

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意	
1 1 1 つ づ き	NK— 049・S 粒	土 壤 混 和	温暖地西部以 西の普通期	一年生雑草 マツバイ	植 代 直 前 直 後 (－3～－1)	⊕ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	1) 混和時の水深 3～5cm 2) 混和深 2～3cm
	RH— 2915粒	土 壤 混 和	全 域 の 普 通 期	一年生雑草 マツバイ	植 代 直 前	⊕ 300 g/a	壤土～埴土 (1.5cm/ 日以下)	
	B—3015 ・K乳	土 壤 混 和	寒冷地以西の 普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	植 代 直 前 直 後 (－3～－1)	⊕ 50～75 cc/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	1) 混和時の水深 3～5cm 2) 混和深 2～3cm
	G—315 (H) 乳	土 壤 混 和	寒地～温暖地 東部の普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	植 代 直 前 直 後 (－3～－1)	⊕ 30cc/a	砂壤土～埴土 (極端な漏水 田はさける)	1) 混和時の水深 3～5cm 2) 混和深 2～3cm 3) 吸着の悪い土壌(砂 壤土、腐植含量の少い 土壌)では水の動きの 少ない場合は薬害の発 生の危険があるので十 分注意する。
1 2 成 苗 移 植 前 後 土 壌 処 理	MS—8粒	土 壤 処 理	全域の普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	－3～＋8 (ノビエ1Lまで) ホタルイ発生始 ヘラオモダカ 発生始	⊕ 300 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
			寒 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ				
	MC—79 粒	土 壤 処 理	全 域 の 普 通 期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	－3～＋3 (ノビエ1Lまで)	⊕ 300 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
	ブタクロール 5%粒	土 壤 処 理	寒地～温暖地 東部	一年生雑草 マツバイ	－3～＋3 (ノビエ 1.5Lまで)	⊕ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
全 域 の 普 通 期			⊕ 300 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)				

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意	
1 1 2 つき	B-3015 ・K粒	土 壌 処 理	全域の普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	-3～+0 ⊕ 300 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)		
1 1 3 成 苗 移 植 後 土 壌 処 理	MC-79 粒	土 壌 処 理	全域の普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	+3～+7 (1L) ⊕ 300 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)		
	MT-101 粒	土 壌 処 理	温暖地の普通 期	一年生広葉雑 草 マツバイ ウリカワ	+4～+5 (ウリカワ発生 始～2Lまで)	⊕ 300 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
	KW-10 粒	土 壌 処 理	寒冷地南部～ 温暖地の普通 期	一年生雑草 マツバイ	+5～ ノビエ1.5L (+10頃)	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
	MT・B- 3015(特) 粒	土 壌 処 理	全域の普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ	+5～ノビエ1.5L (+10頃) ホタルイ： 発生始～2L ウリカワ： 発生始～2L	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
	U-67粒	土 壌 処 理	全域の普通期 暖地の早期	ノビエ カヤツリグサ コナギ マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	+4～ ノビエ1Lまで マツバイ、カヤ ツリグサ、コナ ギ発生盛まで ホタルイ、ミズ ガヤツリ発生前 ～2Lまで	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (1.5cm/ 日以下)	
	KH-191 粒	土 壌 処 理	寒冷地～温暖 地の普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	+4～ノビエ1.5L ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ 発生始期	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	

薬 剤 名	処理法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意	
I-4 成苗茎葉兼土壌処理	モリネート・SM粒	茎葉兼土壌処理	全域の普通期 早期	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	+10～ ノビエ2.5L ヘラオモダカ： 始～2L ホタルイ：盛～5L ウリカワ：盛～5L ミズガヤツリ： 始～4L	㊥ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。
			温暖地東部の普通期，早期	同上 ヒルムシロ	ヒルムシロ： 増殖初期3～5L			
	モリネート・KM粒	同上理	寒冷地以西の普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	+10～ ノビエ2.5L (+15頃) ホタルイ 発生始～盛期 ミズガヤツリ 発生始～3L ウリカワ 盛期～5L	㊥ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
			温暖地東部の早期					
CG-102粒	同上理	全域の普通期 早期	一年生雑草 マツバイ	+7～ノビエ2.5L (+15頃) 〔但し寒地は +5～ノビエ2L〕	㊥ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (極端な漏水田は除く)	・シメトリン混合剤と同様の使用上の注意をまもる。	
		寒 地	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ	ヘラオモダカ 発生始～3L		砂壤土 (3cm/ 日以下)		
TH-67粒	同上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ ミズガヤツリ	+7～ノビエ2.5L 〔但し寒地では +7～ノビエ2.0L〕 ウリカワ：始～4L ミズガヤツリ： 始～3L ヘラオモダカ 発生始～3Lまで	㊥ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤と同様の使用上の注意をまもる。	
		寒 地	同上 ヘラオモダカ					
N-301粒	同上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ	+8～ ノビエ2.5L	㊥ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)		

薬 剤 名	処理法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意	
I ー 4 C O n t e n t	MCC・M ・BAS 粒	茎葉兼土壌処理	寒地～温暖地の普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ	+10～ ノビエ20L ホタルイ： 始～4L ヘラオモダカ： 始～2L ミズガヤツリ： 盛～4L	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
	SMX 粒	同上	温暖地の普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	+7～ ノビエ20L ウリカワ： 発生盛～5L	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤使用上の注意をまもる。
	B-3015 ・S・ MCPB 粒	同上	全域の普通期 温暖地東部の早期	一年生雑草 マツバイ	+10～ ノビエ3L	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。
			温暖地以西の普通期、温暖地東部の早期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	ウリカワ： 発生盛～5L			
B-3015 ・BAS 粒	同上	寒冷地以西の普通期	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ	+6～ ノビエ1.5L ミズガヤツリ： 発生始～盛	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (1.5cm/ 日以下)		
		温暖地西部以西の普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	ウリカワ：発生揃 (3～5L)				
B-3015 ・S・BAS 粒	同上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	+7～ ノビエ2.5L 〔但し 寒地は+7～2L〕 暖地は+7～3L	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。	
		温暖地東部の早期	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ	ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ 発生盛～4L				
S-28・ S 粒	同上	寒地～温暖地の普通期 温暖地東部の早期	一年生雑草 マツバイ	+7～ ノビエ2L	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。	

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意	
I 1 4 成 苗 適 用 時 期 拡 大	CH-721 ・ S 粒	茎 葉 兼 土 壌 処 理	寒冷地～温暖 地東部の普通 期	一年生雑草 マツバイ	+8～ ノビエ2L	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤の使 用上の注意をまもる。
	TH-63 粒	同 上	全域の普通期 早期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ ミズギャツリ ヘラオモダカ	+7～ ノビエ2.5L 〔但し寒地は 2Lまで〕 ホタルイ：始～5L ウリカワ： 盛～4.5L ミズギャツリ： 盛～4.6L ヘラオモダカ： 始～盛(2L)	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤と同 様の使用上の注意をま もる。
	TH-63 (Na) 粒	同 上	全域の普通期 早期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズギャツリ ヘラオモダカ	+7～ ノビエ2.5L 〔但し寒地は 2.0Lまで〕 ホタルイ：始～5L ウリカワ：4～5L ミズギャツリ： 4～6L ヘラオモダカ： 始～盛	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤と同 様の使用上の注意をま もる。
I 1 5 成 苗 適 用 時 期 拡 大	CG-102 粒	同 上	寒地～温暖地 の普通期	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ	田植前後土壌処 理した場合 +15～+20 ノビエ2.5Lまで ヘラオモダカ 始～盛(2L) 〔但し寒地は ノビエ2.0Lまで〕	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (3cm/ 日以下)	・前処理剤と組合わせて 使用する。 ・シメトリン混合剤と同 様の注意をまもる。
	TH-63 粒	同 上	寒地～温暖地 の普通期 温暖地東部の の早期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズギャツリ ウリカワ ヘラオモダカ	田植前後土壌処 理をした場合 +15～+20 ノビエ：2.5Lまで ホタルイ： 発生盛～5Lまで	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤と同 様の注意をまもる。

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
1-5 つづき	(つづき) 茎葉兼土壌処理			ミズガヤツリ： 盛～4～6 L ウリカワ： 盛～5 L ヘラオモダカ： 始～2 L (但し寒地では ノビエ2 Lまで)			
TH-67 粒	同 上	寒冷地～温暖 地東部の普通 期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	田植前後土壌処 理した場合 +15～+20 ノビエ： 2.5 Lまで ウリカワ： 盛～4 Lまで	㊥ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤と同 様の注意をまもる。
モリネート・ SM粒	同 上	寒 地	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ ホタルイ	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25 ノビエ： 2.5 Lまで ヘラオモダカ： 始～2 L ホタルイ： 始～2 L	㊥ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤の使 用上の注意をまもる。
(X-52)→ S-28・ AM粒	同 上	寒冷地～温暖 地東部の普通 期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 ノビエ： 1.5 Lまで ウリカワ： 盛～5 Lまで	㊥ 300 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	・前処理剤としては、一 年生雑草、マツバイ、 およびウリカワに有効 な薬剤を使用する。
HOK-06 粒	同 上	全域の普通期 温暖地東部の 早期 温暖地東部の 普通期、早期	一年生雑草非 イネ科 ウリカワ ホタルイ 一年生雑草非 イネ科 ウリカワ、ホ タルイ、セリ	田植前後土壌処 理をした場合 +25～+30 ウリカワ： 盛～4 L ホタルイ： 盛～3 L セリ： 増殖初期まで	㊥ 300～ 400 g/a	埴土～埴土 (2 cm/ 日以下)	(1)前処理剤と組み合わ せて使用する。 (2)セリは水没状態で効果 が高い。

薬 剤 名	処理法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意	
I ー 5 草 用	HOK-05 粒	茎葉兼土壌処理	寒冷地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ ホタルイ	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 ノビエ：2Lまで ウリカワ： 始～4L ホタルイ： 始～3L セリ： 増殖初期まで	㊥ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (3cm/ 日以下)	(1)前処理剤と組み合わせて使用する。 (2)セリは水没状態で効果高い。 (3)シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。
			温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ、ウ リカワ、ホタ ルイ、セリ				
			温暖地東部の 普通期、早期	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ ホタルイ ミズガヤツリ				
			寒地～温暖地 の普通期	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ ホタルイ ミズガヤツリ 発生始～2L				
(G-315) → MCC ・M粒	同 上	寒地～温暖地 の普通期	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ ホタルイ ミズガヤツリ	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25 ノビエ ヘラオモダカ ホタルイ ミズガヤツリ 発生始～2L	㊥ 300～ 400 g/a	埴土～埴土 (2cm/ 日以下)	・前処理剤との組合せて使用する。	
MCP・ BAS水和	同 上	寒地～温暖地 西部(近畿) の普通期 温暖地東部の 早期	一年生非イネ 科 ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヘラオモダカ	MCP処理期に 準ずる。 一年生非イネ科 ：生育期 ホタルイ： 揃～4L ミズガヤツリ： 揃～7.8L ウリカワ： 塊茎形成前 ヘラオモダカ： 揃～4.5L	㊥ 67～ 100 g/a	砂壤土～埴土 * (1.5cm/ 日以下) * (湛水処理の 場合)	・前処理剤との組合せて使用する。 ・寒地：湛水散布 ・寒冷地、温暖地：湛水散布、浅水処理または落水処理でも可。	
MCP・ BAS粒	茎葉 処理	全岐の普通期 早期	一年生非イネ 科 ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヘラオモダカ	MCP処理期に 準ずる。 一年生非イネ科 ：生育期 ホタルイ： 揃～4Lまで ミズガヤツリ： 揃～5～6L ウリカワ： 塊茎形成前 ヘラオモダカ： 揃～4～5L	㊥ 200～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (1.5cm/ 日以下)	・前処理剤との組合せて使用する。	

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
I 1 5 つ き	2,4 PA・ BAS水和	茎 葉 落 水 処 理	温暖地以西の 普通期	一年生非イネ 科 ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	2,4 PA処理 期に準ずる。 一年生非イネ科 ：生育期 ホタルイ： 摘〜4 L ミズガヤツリ： 摘〜7〜8 L ウリカワ： 塊茎形成前	⊕ 67〜 100 g/a	砂壤土〜埴土 ・前処理剤との組合せて 使用する。 (落水処理)
	2,4 PA・ BAS粒	茎 葉 処 理	温暖地以西の 普通期	一年生非イネ 科 ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	2,4 PA処理 期に準ずる。 一年生非イネ科 ：生育期 ホタルイ： 摘〜4 L ミズガヤツリ： 摘〜5〜6 L ウリカワ： 塊茎形成前	⊕ 200〜 400 g/a	砂壤土〜埴土 (1.5 cm/ 日以下) ・前処理剤との組合せて 使用する。
	MCP・ BAS液	茎 葉 落 水 処 理	全域の普通期 早期	一年生非イネ 科 ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	MCP処理期に 準ずる。 一年生非イネ科 ：生育期 ホタルイ： 摘〜4 L ミズガヤツリ： 摘〜7〜8 L ウリカワ： 塊茎形成前	⊕ 50〜75 cc/a	砂壤土〜埴土 ・前処理剤との組合せて 使用する。 (落水処理)
	MCP・ BAS(Na) 粒	茎 葉 処 理	寒冷地〜温暖 地東部の普通 期 温暖地東部の 早期	一年生非イネ 科 ホタルイ ウリカワ	MCP処理期に 準ずる。 一年生非イネ科 ：生育期 ホタルイ： 摘〜4 L ウリカワ： 塊茎形成前	⊕ 200〜 300 g/a	砂壤土〜埴土 (1.5 cm/ 日以下) ・前処理剤と組合せて使 用する。
	2,4 PA・ BAS(Na) 粒	茎 葉 処 理	温暖地以西の 普通期	一年生非イネ 科, ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ	2,4 PA処理 期に準ずる。 一年生非イネ科 ：生育期	⊕ 200〜 300 g/a	砂壤土〜埴土 (1.5 cm/ 日以下) ・前処理剤と組合せて使 用する。

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
1 1 5 つづき	(つづき)			ホタルイ： 揃～4 L ミズガヤツリ： 揃～5～6 L ウリカワ： 塊茎形成前			
SMX 粒	茎葉兼土壌処理	寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	田植前後土壌処理をした場合 +15～+25 ノビエ： 2 Lまで ホタルイ： 盛～3 L ミズガヤツリ： 盛～5 L	⊕ 300 g/a	壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	- 前処理剤と組合せて使用する。 - シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。
NK-049 ・S粒	土 壌 処 理	寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ	—4～—2	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	抑制期間が短いので、組合せ処理の前処理剤として使用する。
BAS— 3510粒	茎 葉 処 理	全域の普通期	一年生非イネ科 ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	一年生非イネ科 ：発生盛～揃まで ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ 発生盛～増殖 初期まで	⊕ 300～ 600 g/a	砂壤土～埴土 (1.5 cm/ 日以下)	前処理剤との組合せて使用する。
KH-191 粒	土 壌 処 理	寒冷地～温暖 地の普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ	田植前後土壌処理した場合 +10～+15 ノビエ： 1.5 Lまで ホタルイ：発生始 ウリカワ：発生始	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	前処理剤との組合せて使用する。
BAS— 3510 (Na)液	茎 葉 溶 水 処 理	暖 地	一年生非イネ科 ウリカワ ミズガヤツリ	一年生非イネ科 ：盛～揃 ウリカワ ミズガヤツリ 発生盛～増殖 初期まで	⊕ 60～80 cc/a	全 土 壤	- 稀釈水量 5～7 l/a でよく茎葉にかゝるように散布する。 - 前処理剤との組合せて使用する。 - 入水は、1日おいてからおこなう。

薬 剤 名	処理法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意	
I 1 3	B-3015・ ダイアジノン 粒	土 壌 処 理	温暖地東部の 普通期、早期 ダイアジノン が適用出来る 地帯	一年生雑草 マツバイ	+4～+10	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (極端な漏水 田は除く)	
II 1 1 稚 苗 土 壌 混 和 処 理	G-315 乳 (大型機械 散布)	土 壌 混 和	温暖地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ	植代直前直後 -5～-1	⊕ 50cc/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	(1)混和時の水深3～5cm (2)混和深 2～3cm (3)吸着の悪い土壌(砂壤 土、腐植含量の少い土 壌)では水の動きの少 い場合は薬害の発生の 危険があるので十分注 意する。
	G-315 乳	同 上	全域の普通期 温暖地の早期 暖地の早期	一年生雑草 マツバイ	植代直前直後 (-3～-1)	⊕ 50cc/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	(1)混和時の水深3～5cm (2)混和深 2～3cm (3)吸着の悪い土壌(砂壤 土、腐植含量の少い土 壌)では水の動きの少 ない場合は薬害の発生の 危険があるので十分注 意する。
						⊕ 50cc/a	埴土～埴土	
						⊕ 36～50 cc/a	(2cm/ 日以下)	
	改良G- 315乳	同 上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ	植代直前直後 (-7～-1)	⊕ 50～60 cc/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	(1)混和時の水深3～5cm (2)混和深 2～3cm (3)吸着の悪い土壌(砂壤 土、腐植含量の少い土 壌)では水の動きの少 い場合は薬害の発生の 危険があるので十分注 意する。
NTN- 72・K乳	同 上	寒冷地以西の 普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	植代直前直後 (-7～-1)	⊕ 100～ 120 cc/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	(1)混和時の水深3～5cm (2)混和深 2～3cm	
NK- 049・S 粒	同 上	温暖地西部以 西の普通期	一年生雑草 マツバイ	植代直前直後 (-5～-1)	⊕ 400～ 500 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	(1)混和時の水深3～5cm (2)混和深 2～3cm (3)抑草期間が短いので組 合せ処理の前処理剤と して使用する。	

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意	
Ⅱ Ⅰ つづき	B-3015 ・K乳	土 壌 混 和	寒冷地以西の 普通期, 早期	一年生雑草 マツバイ	植代直前直後 (-3~-1)	㊟ 50~75 cc/a	砂壤土~埴土 (2cm/ 日以下)	(1)混和時の水深3~5cm (2)混和深 2~3cm
Ⅱ 2 稚 苗 移 植 前	MS-8粒	土 壌 処 理	寒冷地~温暖 地の普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	-3~+7 (ノビエ1L) ホタルイ: 1Lまで	㊟ 300 g/a	埴土~埴土 (2cm/ 日以下)	
			寒地および暖 地の普通期	-3~-2 +3~+7 ノビエ:1Lまで ホタルイ:1Lまで				
後 土 壌 処 理	モリネート・ K粒	同 上	温暖地以西の 普通期 暖地の早期	-3~-2 +3~+6 +3~+7	㊟ 300 g/a	砂壤土~埴土 (2cm/ 日以下)		
	MC-79 粒	同 上	全域の普通期 温暖地東部の 早期	-3~+8 (ノビエ 1Lまで)	㊟ 300~ 400 g/a	砂壤土~埴土 (2cm/ 日以下)		
	X-52 水和	同 上	温暖地の普通 期	田植当日 (±0)	㊟ 30g/a	埴土~埴土 (2cm/ 日以下)	・移植前後に滴下処理す る。 移植直後の場合は, ・水稻の茎葉にかからな いように注意する。	
	X-52・K 水和	同 上	温暖地の普通 期	田植当日 (±0)	㊟ 60g/a	埴土~埴土 (2cm/ 日以下)	同 上	
	X-52粒	同 上	全域の普通期 早期	-3~+3 +4~ノビエ1L (+8頃)	㊟ 300 g/a	砂壤土~埴土 (極端な漏水 田はさける)		
	X-52・ B粒	同 上	寒冷地南部~ 温暖地	-3~-2 +3~+4	㊟ 300~ 400 g/a	埴土~埴土 (2cm/ 日以下)		
			(次頁つづく)					

Ⅱ
1
2
C
M

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
(つづき)		寒冷地南部	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	ミズガヤツリ ホタルイ 発生始			
		温暖地東部の 普通期	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ				
NTN- 72・K 粒	土 壌 処 理	寒冷地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ	-3~+3 (ノビエ 1 Lまで)	⊕ 300 g/a	砂壤土~埴土 (2 cm/ 日以下)	・抑草期間が短いので組 合せ処理の前処理剤と して使用する。
NK-049 ・S 粒	同 上	寒冷地以西の 普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	-3~-2 +2~+3	⊕ 300~ 400 g/a	砂壤土~埴土 (2 cm/ 日以下)	
ブタクロール 5%粒	同 上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	+3 〔ホタルイ： 発生前~2 L ミズガヤツリ： 発生前~3 L〕	⊕ 300 g/a	壤土~埴土 (2 cm/ 日以下)	
		寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ ホタルイ				
ブタクロール 2.5%粒	同 上	全域の普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	-3~+3 ホタルイ 発生前~2 L	⊕ 300~ 400 g/a	砂壤土~埴土 (2 cm/ 日以下)	
		寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ				
S S T 粒	同 上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ	+3~+5 (ノビエ1 L)	⊕ 300~ 400 g/a	壤土~埴土 (2 cm/ 日以下)	
		温暖地以北の 普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	ホタルイ： 発生始			
B-3015 ・K 粒	同 上	寒冷地~温暖 地の普通期	一年生雑草 マツバイ	-3~+6	⊕ 300 g/a	砂壤土~埴土 (2 cm/ 日以下)	
		暖地の普通期	一年生雑草, マツバイ, ホ タルイ, ミズ ガヤツリ	-3~+0 ホタルイ ミズガヤツリ 発生前			

薬 剤 名		処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
Ⅱ 1 3 稚 苗 移 植 後 土 壌 処 理	MT-101 粒	土 壌 処 理	温暖地以西の 普通期	一年生広葉雑 草 マツバイ ウリカワ	+5~+10 一年生広葉雑草 マツバイ： 発生始 ウリカワ： 始~3Lまで	⊕ 300~ 400 g/a	砂壤土~埴土 (2cm/ 日以下)	
	NTN-72 ・K粒	同 上	温暖地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ	+5~ノビエ 1.5L (+10頃)	⊕ 300~ 400 g/a	砂壤土~埴土 (2cm/ 日以下)	
	ブタクロール 5%粒	同 上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	+4~ノビエ 1.5L ホタルイ： 発生前~2L ミズガヤツリ： 発生始~3L	⊕ 300 g/a	埴土~埴土 (2cm/ 日以下)	
	MT・B- 3015(H) 粒	同 上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ ホタルイ	+5~ノビエ 1.5L ウリカワ ホタルイ 始~2Lまで ミズガヤツリ： 始~2Lまで	⊕ 300~ 400 g/a	砂壤土~埴土 (2cm/ 日以下)	
			寒冷地以西の 普通期	一年生雑草， マツバイ，ウ リカワ，ホタ ルイ，ミズガ ヤツリ				
	MT・B- 3015 粒	同 上	寒冷地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ	+5~ノビエ 1.5L ホタルイ： 始~2L ウリカワ： 始~2L	⊕ 300~ 400 g/a	埴土~埴土 (2cm/ 日以下)	
			寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ				
	MT・B- 3015・ MCPB 粒	同 上	温暖地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	+5~ノビエ 2L ウリカワ： 始~4L ホタルイ： 始~2L	⊕ 300~ 400 g/a	埴土~埴土 (1cm/ 日以下)	
			温暖地西部の 普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ ホタルイ				

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意	
Ⅱ ー 3 つぎ	B-3015 ・ダイアジ ノン粒	土 壌 処 理	温暖地東部の 普通期，早期 でダイアジノ ンが適用出来 る地帯	一年生雑草 マツバイ	+4～+10 (ノビエ 1.5Lまで)	㊟ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (極端な漏水 田は除く)	
Ⅱ ー 4 稚 苗 茎 葉 兼 土 壌 処 理	モリネット 粒	茎 葉 兼 土 壌 処 理	暖地の普通期	ノビエ ホタルイ	+4～ ノビエ2L ホタルイ： 始～2Lまで	㊟ 300～ 400 g/a	埴壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
	モリネット・ SM粒	同 上	寒冷地～温暖 地の普通期 温暖地東部及 暖地の早期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	+15～ ノビエ3.5L 但し寒地は2.5L ウリカワ： 盛～5L ホタルイ： 始～2L ミズガヤツリ： 始～3L ヘラオモダカ： 始～2L	㊟ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤の使 用上の注意をまもる。
	モリネット・ K粒	同 上	寒冷地以西の 普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ	+5～ノビエ 2.5L ホタルイ： 始～2L	㊟ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	
	モリネット・ KM粒	同 上	寒冷地以西の 普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	+10～ ノビエ3L 但し寒冷地は 2.5Lまで ホタルイ： 始～2L ウリカワ： 始～4L ミズガヤツリ： 始～3L	㊟ 300～ 400 g/a	〔温暖地以西 の普通期〕 砂壤土～埴土 (2cm/ 日以下) 〔寒冷地〕 埴土～埴土 (2cm/ 日以下)	

Ⅱ
1
4

つ
づ
き

薬 剤 名	処理法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
ブタクロール・ S粒	茎葉兼土壌処理	寒冷地～温暖地の普通期 温暖地東部の早期	一年生雑草 マツバイ	+ 8 ～ ノビエ 2 L (+ 1 2 頃)	⊕ 300 ～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm / 日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。
B-3015 ・BAS・ MCPB粒	同上	温暖地西部以西の普通期 温暖地東部の普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ 一年生雑草 マツバイ ホタルイ	+ 7 ～ ノビエ 2.5 L ウリカワ： 始～3 L ホタルイ： 始～3 L	⊕ 300 ～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (1.5 cm / 日以下)	
B-3015 ・S・ MCPB粒	同上	寒地～温暖地の普通期 寒冷地、温暖地の普通期 寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ 一年生雑草 マツバイ ウリカワ 一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ	+ 1.5 ～ ノビエ 3 L 〔但し寒地は + 7 ～ノビエ 2 L〕 ホタルイ： 始～3 L ウリカワ： 始～4 L ミズガヤツリ： 始～4 L	⊕ 300 ～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm / 日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。
B-3015 ・BAS 粒	同上	寒冷地以西の普通期 寒 冷 地 暖地の普通期	一年生雑草 マツバイ 一年生雑草 マツバイ ホタルイ 一年生雑草 マツバイ ウリカワ	+ 6 ～ ノビエ 1.5 L 〔但し寒冷地は + 8 ～1.5 L〕 ホタルイ： 始～4 L ウリカワ： 3 ～5 L	⊕ 300 ～ 400 g/a	壤土～埴土 (1.5 cm / 日以下)	
B-3015 ・S・BAS 粒	同上	寒冷地～温暖地の普通期 温暖地東部の早期	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ ホタルイ ウリカワ	+ 8 ～ ノビエ 2.5 L 〔但し寒地は + 7 ～2.0 L〕 ミズガヤツリ： 盛～4 L ホタルイ： 盛～3 L ウリカワ： 盛～3 L	⊕ 300 ～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm / 日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意	
Ⅱ — 4 つ づ き	HOK—05 粒	茎 葉 兼 土 壌 処 理	寒冷地～温暖 地の普通期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ	+10～ ノビエ20L ホタルイ： 始～2L ヘラオモダカ： 始～3L ウリカワ： 盛～5L	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (1.5cm/ 日以下)	
			温暖地西部以 西の普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ				
	X—52・ モリネット ・AM粒	同 上	温暖地の普通 期	一年生雑草 マツバイ	+8～ ノビエ25L	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2.0cm/ 日以下)	
			暖地の普通期	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ	〔但し温暖地東部 は、+12～ ノビエ25L〕 ミズガヤツリ： 始～4L			
	TH—63 粒	同 上	寒冷地以西の 普通期，早期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	+8～ ノビエ25L 〔但し寒地は +7～2L 寒冷地は +10～25L〕 ホタルイ： 始～5L ウリカワ： 盛～4.5L ミズガヤツリ： 盛～4.6L ヘラオモダカ： 始～盛(2L)	⊕ 300 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤と同 様の使用上の注意をま もる。
			寒地～寒冷地	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ				
	CG—102 粒	同 上	寒冷地以西の 普通期 暖地の早期	一年生雑草 マツバイ	+8～ ノビエ25L 〔但し寒地は +7～2.0L 寒冷地は +10～25L〕 ヘラオモダカ： 発生始～盛(2L)	⊕ 300 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	同 上
			寒地～寒冷地	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ				
	TH—67 粒	同 上	寒冷地以西の 普通期 温暖地東部の 早期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	+10～ ノビエ25L ウリカワ： 盛～4L (次頁つづく)	⊕ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	同 上

薬 剤 名		処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
Ⅱ — 4 — C — C — C	(つづき)		寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ	ミズガヤツリ： 盛～4.5 L			
	CG-102 粒	茎葉兼土 壤処理	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ	移植前後土壌処 理した場合 +15～+25 (ノビエ2.5 L まで、但し、寒 地は2 Lまで) ヘラオモダカ： 発生始～盛(2L)	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	- シメトリン混合剤と同様の使用上の注意をまもる。 - 前処理剤との組合せて使用する。
	TH-63 粒	同 上	全域の普通期 温暖地の早期	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ	移植前後土壌処 理した場合 +15～+25 (ノビエ2.5 L) 但し寒地は2.0 L ホタルイ： 盛～5 L ウリカワ： 盛～5 L ヘラオモダカ： 始～盛(2L) ミズガヤツリ： 盛～4.6 L	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	- 同 上 - 同 上
	TH-67 粒	同 上	全域の普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ	移植前後土壌処 理した場合 +15～+25 (ノビエ2.5 L) 但し寒地は2.0 L ウリカワ： 盛～5 Lまで ミズガヤツリ： 盛～5 L ホタルイ： 盛～5 L ヘラオモダカ： 始～盛(2L)	⊕ 300～ 400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	- 同 上 - 同 上
			寒冷地～温暖 地の普通期	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ ホタルイ				
			寒地～寒冷地	一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ				

きゅう

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意	
Ⅱ 1 5	MTS-1 粒	土 壌 処 理	寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	-3~+3 ノビエ1Lまで ホタルイ： 発生始	⊕ 300~ 400 g/a	壤土~埴土 (2cm/ 日以下)	・体系処理の前処理剤として使用する。
	モリネート・ SM粒	茎 葉 兼 土 壌 処 理	寒地~温暖地 東部の普通期 早期	一年生雑草 マツバイ	移植前後土壌処 理した場合 +20~+30 (ノビエ3.5L まで、但し寒地 は2.5Lまで) ホタルイ： 始~2L ヘラオモダカ： 始~2L ウリカワ： 始~3L	⊕ 300~ 400 g/a	砂壤土~埴土 (2cm/ 日以下)	・シメトリン混合剤の使用 上の注意をまもる。
			寒地~寒冷地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ				
			寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ウリカワ				
	モリネート・ KM粒	同 上	寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	移植前後土壌処 理した場合 +18~+25 (ノビエ2.5L まで) ホタルイ： 始~2L	⊕ 300~ 400 g/a	砂壤土~埴土 (2cm/ 日以下)	
	HOK-05 粒	同 上	寒冷地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ	移植後土壌処理 した場合 +20~+25 (ノビエ2Lまで) ホタルイ： 始~2L ヘラオモダカ： 始~3L ウリカワ： 始~5L	⊕ 300~ 400 g/a	壤土~埴土 (2cm/ 日以下) 砂壤土 (1cm/ 日以下)	・前処理剤との組合せで 使用する。 ・シメトリン混合剤の使用 上の注意をまもる。
			寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ				
			温暖地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ ウリカワ				
	X-52・ モリネート ・AM粒	同 上	寒地~温暖地 の普通期	一年生雑草 マツバイ	移植前後土壌処 理した場合 +20~+30 (ノビエ 2.5Lまで) ミズガヤツリ： 発生始~4L	⊕ 300 g/a	壤土~埴土 (2cm/ 日以下)	・前処理剤との組合せで 使用する。
			寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ウリカワ ミズガヤツリ				

薬 剤 名		処理法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 5 つ き	(X-52)→ アリンMCP 粒	茎葉兼土壌処理	温暖地東部の 普通期 温暖地西部以 西の普通期、 早期	一年生広葉雑 草、ウリカワ	移植前後土壌処 理した場合 +15～ ウリカワ 4.5 L	㊥ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (1.5 cm/ 日以下) 温暖地東部の 普通期では、 砂壤土(1.5 cm/日以下) 含む。	- ウリカワ多発田を対象とする。 - ウリカワにも有効な前処理剤との組合せで使用する。
	(X-52)→ プロメトリン ・MCPB 粒	同	寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ	移植前後土壌処 理した場合 +20～+25 (ノビエ 1.5L) ウリカワ： 始～4 L	㊥ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	- ウリカワにも有効な前処理剤との組合せで使用する。 - シメトリン混合剤と同様の使用上の注意をまもる。
	(ブタクロール)→ プロメトリン ・MCPB 粒	同	寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ホタルイ	移植前後土壌処 理した場合 +20～+25 (ノビエ 1.5L) ミズガヤツリ： 始～2 L ヘラオモダカ： 始～2 L ホタルイ： 始～2 L	㊥ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	- ミズガヤツリ、ホタルイにも有効な前処理剤との組合せで使用する。 - シメトリン混合剤と同様の使用上の注意をまもる。
	SMX 粒	同	寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	移植前後土壌処 理した場合 +20～+25 (ノビエ 2.0L) ホタルイ： 盛～3 L	㊥ 300 g/a	壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	- 前処理剤との組合せで使用する。 - シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。
	ブタクロール ・S 粒	同	寒地～温暖地 の普通期 寒地、寒冷地	一年生雑草 マツバイ 一年生雑草 マツバイ ヘラオモダカ ホタルイ	移植前後土壌処 理をした場合 +15～+25 (ノビエ 2 Lまで) ヘラオモダカ： 始～2 L ホタルイ： 始～2 L	㊥ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	- 前処理剤との組合せで使用する。 - シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意	
Ⅱ 1 5 つ づ き	SSH-23 粒	土 壌 処 理	寒 冷 地	一年生雑草 マツバイ ホタルイ	移植前後土壌処 理した場合 +20～+25 (ノビエ 1.0Lまで) ホタルイ： 始～2Lまで	㊟ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・前処理剤との組合せで 使用する。
	BAS- 3510 粒	茎 葉 処 理	全域の普通期 温暖地東部の 早期	一年生非イネ 科 ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	移植前後土壌処 理をした場合 一年生非イネ科 発生盛～揃 ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ 発生盛～増殖 初期	㊟ 300～ 600 g/a	砂壤土～埴土 (1.5cm/ 日以下)	同 上
	SST 粒	土 壌 処 理	温暖地以西の 普通期	一年生雑草 マツバイ クログワイ	移植前後土壌処 理した場合 +14～+20 (ノビエ 1Lまで) クログワイ： 始～草丈4.5 cmまで	㊟ 400 g/a	壤土～埴土 (2cm/ 日以下)	・クログワイにも有効な 前処理剤との組合せで 使用する。 ・クログワイ多発田を対 象とする。
	BAS- 3510 液	茎 葉 落 水 処 理	温暖地西部以 西の普通期	一年生非イネ 科 ウリカワ ホタルイ ミズガヤツリ	一年生非イネ科 発生盛～揃 ウリカワ ホタルイ ミズガヤツリ 発生盛～増殖 初期	㊟ 60～80 cc/a	全 土 壤	・前処理剤との組合せで 使用する。 ・稀釈水量5～7ℓ/a でよく茎葉にかかるよ うに散布する。 ・入水は1日おいてから おこなう。
	MCP・ BAS 水和	同 上	温暖地東部の 普通期	一年生非イネ 科 ウリカワ ミズガヤツリ	MCPに準ずる 一年生非イネ科 ウリカワ： 塊茎形成前 ミズガヤツリ： 揃～7.8L	㊟ 67～ 100 g/a	全 土 壤	・前処理剤との組合せで 使用する。 ・落水茎葉処理する。

薬 剤 名	処 理 法	適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意	
Ⅱ 1 5 こ し き	MCP・ BAS 粒	茎 葉 処 理	寒冷地 温暖地東部の 普通期	一年生非イネ 科 ウリカワ ミズガヤツリ ホタルイ	MCPに準ずる 一年生非イネ科 ウリカワ： 塊茎形成前 ミズガヤツリ： 揃～5.6 L ホタルイ： 揃～4 L	㊥ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (2 cm/ 日以下)	・前処理剤との組合せで 使用する。
Ⅱ 1 湛 水 直 播	G-315 乳	土 壤 混 和 処 理	温暖地東部 (平坦地)以 西	一年生雑草 マツバイ	ー4～ー3 (播種前)	㊥ 33～50 cc/a	壤土～埴土 (極端な漏水 田はさける)	
			寒 冷 地	植代直後				保温折衷直播
	モリネート K粒	茎 葉 兼 土 壤 処 理	温暖地西部以 西	一年生雑草 マツバイ	播種後 7～15日 イネ：1.5 L以後 ノビエ： 2.0 Lまで コナギ： 3.0 Lまで	㊥ 300～ 400 g/a	植壤土～埴土 (1.0 cm/ 日以下) 火山灰土壌 (3.0 cm/ 日以下)	・コナギ多発田では早目 に使用する。 ・低温での使用は薬害の 危険性があるので注意 する。
	B-3015 ・K粒	同 上	暖 地 播種期6月上 旬～中旬栽培 に適用	一年生雑草 マツバイ	播種後 7～15日 イネ： 1.5 L以後 ノビエ： 2.0 Lまで	㊥ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (1 cm/ 日以下) 火山灰土壌 (3 cm/ 日以下)	・芽干し後に使用する。
Ⅱ 1 2 乾 田 直 播	モリネート ・SM粒	同 上	温暖地東部 暖 地	一年生雑草 マツバイ	入水後 7～15日 ノビエ： 3.5 Lまで	㊥ 300～ 400 g/a	壤土～埴土 (3 cm/ 日以下)	
	BAS- 3510 水和	茎 葉 処 理	寒冷地南部～ 温暖地 温暖地東部	ミズガヤツリ	入水後 ミズガヤツリ 2～7 L 入水前 ミズガヤツリ 発生揃後	㊥ 60～ 120 g/a ㊥ 60 g/a	砂壤土～埴土 (1.5 cm/ 日以下) 全 土 壤	・DCPA剤と10日以 内の近接散布はさける。

薬 剤 名		処 理 法	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅲ 2 つづき	BAS— 3510 液	茎 葉 処 理	温暖地西部	ミズガヤツリ	入水後 ミズガヤツリ 2～7 L	⊕ 60～80 cc/a	砂壤土～埴土 (1.5 cm/ 日以下)	・DCPA 剤と10日以内の近接散布はさける。
					入水前 ミズガヤツリ 発生前後	⊕ 60cc/a	全 土 壤	
Ⅳ 畦 畔	アシュラム 液	同 上	温暖地西部以西	全 草 種	雑草生育期	⊕ 150～ 300 cc/a	全 土 壤	・ノリ面散布はさける。 ・稲体にかからないようにする。 ・流入による薬害のおそれをなくする。 ・イネ科雑草を主対象とする。
	バラコート 起泡剤	同 上	温暖地東部	全 草 種	雑草生育期	⊕ 30cc/a	全 土 壤	・ノリ面散布はさける。 ・稲体にかからないようにする。 ・流水による薬害のおそれをなくする。 ・散布水量5～10ℓ/aとする。
V 耕 起 前	MON—39 液	同 上	寒冷地以西	一年生雑草	耕起前 30～40日	⊕ 30～ 100 cc/a	全 土 壤	・稀釈水量はできるだけ少ない量で茎葉によく付着するように散布する。 ・周辺の作物に飛散しないように注意する。
Ⅵ 休 耕 田・ 非 農 耕 地	MON—39 液	同 上	温暖地西部以西	イネ科多年生 雑草と一年生 雑草	生育初期	⊕ 50～75 cc/a	全 土 壤	・稀釈水量はできるだけ少なく茎葉に付着するように散布する。 ・周辺の作物に飛散しないように注意する。